

# 高標高地におけるシカ捕獲手法の開発(1) (環境省地域生物多様性保全活動支援事業(山梨県))

高標高地に生息するシカは季節移動するため、地点ごとの密度変動が大きいことから  
越冬地あるいは越冬地への移動のルート上で、密度の高い地域と期間を把握して捕獲することが重要

## 囲いワナによる集団捕獲

### 特徴

- 立木を支柱として利用することにより、強度が高まり、資材費も抑制できる。
- シートが落下する仕組みのゲートにより、厳冬期でも安定した動作と強度を確保。ゲートの閉鎖は、リモート作動式とブービートラップ式の2通りの方法で実施。
- ワナ設置後、約2週間(2~3回)の給餌で捕獲が可能(事前に1~2週間の馴らし期間があれば、ワナ内部への誘導がより早まる)。
- シートで周囲の視界を遮断することにより、シカが沈静化し翌朝の処理が可能(逃走や破壊の恐れが低減)。
- わなへの侵入は最大で6頭を確認し、多頭捕獲の可能性が示唆された。

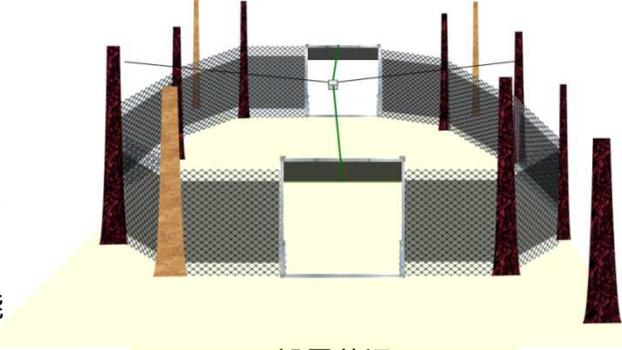
### 実施上の留意点

- 捕獲環境や季節によって侵入状況、侵入個体の性比が異なるため、事前の誘引試験により捕獲適期の見極めが必要。
- シートを使用せずネットのみで囲う場合、逃走防止のため2.5m程度の高さの確保が必要。

### 課題

- 監視カメラ等の微弱赤色灯やブービートラップの張り糸に警戒する個体がいる。  
多頭捕獲のためには、複数侵入時のゲート閉鎖システムの導入が有効。
- 迅速な対応には捕獲通報システムの導入が必要。

(イメージ図)



(設置状況)

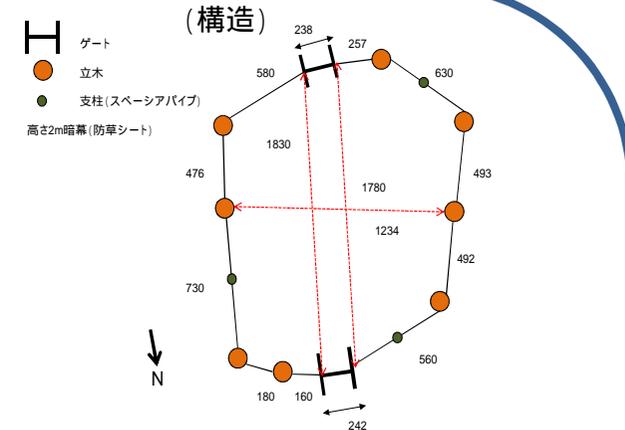


(誘引個体)

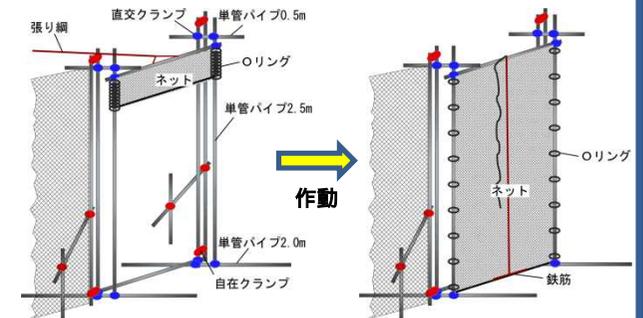


(捕獲個体)

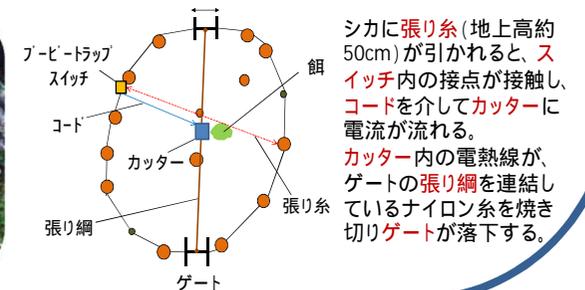
(構造)



(ゲート構造)



(ブービートラップ構造)



シカに張り糸(地上高約50cm)が引かれると、スイッチ内の接点が接触し、コードを介してカッターに電流が流れる。カッター内の電熱線が、ゲートの張り網を連結しているナイロン糸を焼き切りゲートが落下する。